

『服装の歴史のために』 W. デイツ、C. フレーリッヒ、C. ヘバーリン、M. ハイル、
A. ミュラー、F. ロートバルト、J. ヴァターらの描画による

Zur Geschichte der Costüme nach Zeichnungen von Wilh. Diez, C. Fröhlich, C. Häberlin, M. Heil, A. Müller, F. Rothbart, J. Watter. München, Braun & Schneider (1861—1890) [1895?] 125 plates (wood hand-col.) 33.8×23.2 cm <383.1-Z>

Hiler p. 911 Colas 1234 Lipp. 83

ここに収められた図版は「ミュンヘンの絵草紙」Münchener Bilderbogenというコレクション名で知られている。4世紀から19世紀までのヨーロッパ、アジアにおける各時代の服装及び民族服が描かれており、ミュンヘンのブラウン・ウント・シュナイダー社から1861年より1890年までの間に不定期に刊行された。これらの図版は同社で『服装の歴史』という本書の題のもとにまとめられ、初回は1861年から1874年までの32枚を合せて刊行し、その後は図版を増しながら、度々版を重ねた。図版の配列は体系的ではなく、刊行順に製本されており、本館所蔵のものは、125枚の見開き頁からなる手彩色の木口木版画集で、図版には図版番号と服装画の年代、国名及び図版によっては原画者名が記されている。標題紙、序文、目次はないが、およそ1895年ごろの出版と推測される。

同じ図版は、『123枚の図版による諸民族の服装』Costumes of all nations, one hundred and twenty-three platesという標題でロンドンのグレーベル社から1900年代に入って数回刊行されている。これではミュンヘン版と同じく、図版は刊行順に製本され、図版の見出しもドイツ語のままであった。初期の版では、図版は手彩色にされたが、後には彩色版と白黒版とが刊行された。

1975年、ニューヨークのドーバー社は、ロンドン版の第三版(1907年刊)をもとに123枚の図版にミュンヘン版から2枚の図版を補足して、Historic costume in pictures <383.1-H>という標題で刊行した。そこでは、図版も年代順に見やすく並べかえられ、目次、出版社のメモが新たに加えられたし、図版の見出しも英語に統一されている。

内容は、4世紀から19世紀までの広範な国々の身分・階級服、特殊服——エジプトやアッシリアの王、ビザンチン皇帝、フランク人やノルマンの貴族、様々な国や時代の祭司、召使い、兵士、十字軍、ドイツの騎士、イタリアの学識者、ドイツの市民、農夫、商人、町人、尼僧、修道士、イギリス清教徒と英国王黨員、イギリスとフランスの王、スイスの市民、フランスの廷臣や共和黨員などと、19世紀後期西欧における民族衣装、また、東欧、中国、日本などの服装を繊細な描図で示している。これらの図版は原標題にもみられるミュンヘンの優れた画家たちによって描かれているため、精巧である。W. デイツ (1839—1907) は、ミュンヘンの美術学校の教授で、風刺画などを多く手掛けた。F. ロートバルト (1823—1889) は歴史画家。J. ヴァター (1838—1913) は挿絵画家。M. ハイル (1830—1865) は素描の専門家であった。(平井)